

# の奇

5.0

明:

クルアンは、あたかも20世の科学にとって 染み深い考え方である「は大地から する」ということを否定し、「は “下った” ものである」ということを示しているかのようです。

目:[事イスラ ムの真 性を示す数々の とクルア ンの 述における科学的奇](#)

目:[事クルア ンクルア ンの 述における科学的奇](#)

より: A.O.

日14 Dec 2009

集日 06 Mar 2023



はクルア ンにおいて、特に された元素の一つです。クルア ンの中の「[\( \)](#)」という名で知られる章には、このようなくだりがあります。

“????????????????“????????”??...?” (?????? 57:25)

この の中で、アラビア の “アンザルナ ” という言 は “われが下した” と されています。ここで に して “下した” という言い回しが使われているのは、 が人々のために 々な 益を提供すべく授けられたということを示すための、比 的な意味ゆえである とも考えられます。しかし字 通りの意味を考 に入れるならば、“物 的に空から下され た、というこの言 の 法はクルア ンの中において、雨や 示の下降のような、直 的な意味

以外には用いられていません。そしてこのことから、私たちはこの章が大 重要な科学的奇 を示していることに づきます。というのも 代の天文学的 において、私たちの世界で された は、宇宙の巨大な星々から来たものであることが明らかにされているからです。

地上の どころか、全太 系に存在する も大 外の宇宙から来ています。それは太 の温度がの形成には不十分なためです。太 の表面は、 氏6000度、その中心部の温度はおよそ20万度にも しますが、 はその温度が何百万度にも及ぶ、太 よりも大きな星でのみ形成されます。そして の量がその星での一定水 量を超えると、その星は を含有することが出来なくなり、徐々に“新星”または“超新星”と呼ばれる星の中で爆 します。そしてこれらの爆 が、宇宙への の放出を可能にするのです。

ある科学情 筋は、この について以下のような情 を提供しています。

“古い超新星事象にも があります。深海堆 物の60の 化水 は、超新星爆 がおよそ50年前に太 から90光年以内の距 で起こったことを示しています。 - 60は の放射 同素体であり、超新星爆 により形成され、150万年の半生により朽ちてしまいます。地 学的地 にあるこの同素体の 化されたものは、宇宙内の近 の要素が最近核合成されたこと、そしてそれらに したものが（おそらく埃の一部として）地球まで ばれたことを示しています。

これら全ては、 が地球内で形成されたのではなく、超新星から ばれこと、そして上 の章で言及されている通り“下された”ことを示しています。この事 が、クルア ンの 示された 元7世 当 において知られていなかったことは明らかです。にも わらず、この事 は限の知 において全てを している神の言 、クルア ンの中において言及されているのです。

クルア ンの章は、 が大 くべきものであることを特 していますが、しかしながらこれらの は20世 末になされたものであると なされています。有名な微生物学者マイケル デン

トンは彼の著「自然の命」において、その重要性をこう述べています：

全ての金属の中で、以上は生活に必要不可欠なものはありません。超新星の爆発と、それに引き続いて生命の活性化された原子が全宇宙に散乱することを促すのは、星の中心における放射熱の蓄積なのです。そして地球において最初の科学分化を起こすことになったのは、原初期の大気におけるガスの放出、また究極的に水の形成を引き起こす原因となったのは、初期段階において地球がその中心に存在する原子の重力により引っ込まれたためだったのです。地球の中心で溶けた鉄は巨大な磁石のように力を担い、地球の磁場を生かせ、そうすることによって破局的な高エネルギーで通る宇宙の放射から地球の表面を守り、宇宙光の破滅から重要なオゾン層を保護するヴァン・アレン磁場を形成するのです。

鉄の原子なしには、宇宙において炭素を元とする生命は存在しなかったでしょう。また超新星、原始地球の、大気または大気中の水も存在しなかったでしょう。そして地球を保護する磁場やヴァン・アレン放射も、オゾン層も、人の血液内のヘモグロビンを作る金属も、酸素の反応性を制御する金属も、酸化還元もなかったでしょう。

“生命と、そして血液の赤色とくにあるいくつかの星の色合いとの間の味深い密な関係は、生物学における金属の性質を示すだけでなく、宇宙の生物中枢性をも示しているのです…

この文は、鉄の重要性を明らかに示しています。事象のなかにおいてには特別な注目が向けられ、その要素の重要性が強調されているのです。

更に、酸化粒子は最近がん治療に使われ、顕微鏡的な観察されています。世界的に有名なドイツのシャリテ病院のアンドレアス・ジョーダン医師率いるチームは、がん治療の新しい技術として磁性流体温療法(高温の磁流体)により、がん細胞を破壊することに成功しました。この技術は26のニコラウス H.に初めて用いられ、施されましたが、この手続は3ヶ月に渡って彼に新しいがん細胞が壊れることはありませんでした。

この治療法は以下のようにまとめられます：

1.

酸化粒子を含む液体は、特 注 入 器 で 注 射 さ れ ま す 。 こ れ ら の 粒 子 は 癌 胞 を 通 っ て 行 っ て 行 っ ち ます 。 こ の 液 体 は 何 千 、 何 万 も の 粒 子 か ら 成 り 、 赤 血 球 よ り も 1000 倍 小 さ く 、 酸 化 物 の 1 cm<sup>3</sup> で あ り 、 全 て の 血 管 を 通 っ て 流 れ る こ と が 出 来 ます 。

2. それから患者は、い 磁 界 を 受 け た 器 へ と 移 さ れ ます 。

3.

こ の 磁 界 は 外 部 に 施 さ れ 、 粒 子 を 癌 胞 の 中 に 浸 透 さ せ 始 め ます 。 こ の 時 、 酸 化 粒 子 を 含 ん だ 癌 胞 の 温 度 は 45 度 に 上 昇 し ます 。

4.

こ う し て 数 分 の 内 に 、 癌 胞 は 自 身 を 守 れ な く な り 、 弱 体 化 す る か 破 壊 さ れ る こ と が 起 きます 。 こ の 治 療 は 化 学 的 な 化 学 薬 剤 に よ り 全 体 を 治 療 し ます 。

こ の 治 療 に お い て は 、 癌 胞 の み が 酸 化 粒 子 を 含 む こ と か ら 、 磁 界 に よ っ て そ の 癌 胞 の み が 影 響 さ れ る こ と に な る の で す 。 こ の 技 術 の 発 見 は 、 こ の 致 命 的 な 可 能 性 の あ る 癌 の 治 療 に お け る 大 き な 進 歩 で す 。 ま た は 、 血 に 苦 し む 人 々 の 治 療 と し て も 使 用 さ れ て い ます 。 こ の よ う に 蔓 延 す る 癌 の 治 療 に お け る 役 割 を 考 へ る と 、 ク ル ア ン の “ そ れ ( ) に は 大 な 力 が あ り 、 人 間 同 じ の た め に 互 の 便 益 を 供 す る ” ( ク ル ア ン 57:25 ) と い う 表 述 は 特 に 注 目 に 値 し ます 。 の と ころ ク ル ア ン は そ の 章 の 中 で 、 人 間 の 健 康 に と っ て さ え も 有 益 で あ る こ と を 示 し て い る の か も 知 れ ませ ん ( 神 が 一 番 よ く ご 存 知 で す ) 。

こ の 事 の ウェブ アドレス:

<https://www.islamreligion.com/jp/articles/562>

著作 2006-2015 断 断 を 禁 じ ます 。 2006 - 2023 IslamReligion.com. 断 断 を 禁 じ ます 。